

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	編集室からのお知らせ
別タイトル	NEWS FROM EDITORIAL OFFICE OF IGAKUKAI
作成者（著者）	東邦大学医学会編集委員会
公開者	東邦大学医学会
発行日	2020.06.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 67(2). p.83 84.
資料種別	その他
著者版フラグ	ETC
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD69636834

編集委員長交代のご挨拶

伊豫田 明

東邦大学医学部外科学講座呼吸器外科学分野（大森）

2017年4月より、杉山 篤先生の後任として東邦医学会雑誌 Toho Journal of Medicine の編集委員長を務めさせて頂き2020年4月から中野新編集委員長にバトンタッチしました。拝命してから3年、今思うとあつという間であり、また、その任の重さ故長くも感じた期間でしたが大変貴重な経験をさせていただきました。編集委員としてご活躍頂いた各先生（アルファベット順）（基礎系：赤羽、石井、近藤、三上、中野、佐藤、臨床系：弘世、池田、片桐、水野、島田、和田、編集顧問：杉山、津熊、敬称略）、東邦医学会運営委員の諸先生方、東邦医学会雑誌/Toho Journal of Medicine の関係者の方々、本誌をご愛読いただいた皆様に本誌面をお借りしまして心より御礼申し上げます。

杉山先生の任期中に、東邦医学会雑誌を英文誌と邦文誌に分けて、Toho Journal of Medicine を創刊し、東邦医学会雑誌を年6号から4号とする大改革が行われた後を受け継いだわけですが、屋台骨というか東邦医学会雑誌そのものといってもよい東邦大学医学会事務局の高口さんが退職された後の荒波の中の船出となりました。しかしながら当時医学部長の高松学長、その後引き継がれた渡邊医学部長のご支援の下、高口さんに作成していただいた詳細な東邦医学会雑誌運営マニュアルと杏林舎（片山、岡田、小野里、田村、及川、敬称略）の方々にご支援をいただき務め上げることができました。

私が就任してまず行いましたのは、それまでは医学会事務局で原稿受付等を含めてほぼ全て手作業で行われていた業務を、ScholarOne を利用した投稿、査読システム導入を行って軌道にのせることでした。ScholarOne は学会誌ですでに導入されているシステムですが、学位論文も関連する大学誌での導入となると留意点も多くありました。最も影響を受けるであろう編集委員の先生方のご負担を考え編集委員を増員していただくとともに杉山先生とご相談し、編集委員の先生方に Associate Editor にご就任頂き懸案で

あった section editor 制度を ScholarOne システムと同時に導入することといたしました。それに伴って、投稿規定や reviewer 選定システムも大幅に変更し、現在では広く学内の先生方を中心に論文評価をお願いするよういたしました。また、査読過程において auto-decline を導入し、査読の迅速化を促進しました。さらに都内3大学間（日本医科大学、東京女子医科大学、東邦大学）における相互査読協力システムを用いて他大学から、本学へ査読依頼があり会員の先生方に対応していただきました。

Impact Factor 獲得の前に PMC 掲載を目指し、医学会からのご支援と編集委員の先生方に多大なご協力を頂きましたが、プレデタージャーナルの襲来（ハゲタカジャーナルの乱立）で、PMC 掲載基準が大変厳しくなった時期と重なったのは残念です。しかしながら PMC 掲載基準を目標に投稿規定の改定など本誌が挑戦したことは今後にとって大変大きな意味があると思っています。

東邦医学会雑誌、Toho Journal of Medicine の内容が充実していくとともに学位論文の投稿が増加しました。ご投稿いただいた教室の先生方に感謝申し上げますと同時にその中で論文の質に関する課題も見つかりました。今後本誌が学外においても高い評価を受けるためには通らなければいけない過程と思います。論文の質向上のためには、研究倫理に基づいた再現性のある高度な研究手法、authorship の正確な理解と実践、建設的で的確な査読者の意見が必要だと思います。Impact Factor の獲得が現実のものとなるよう、今度は一人の著者、査読者となって協力していきたいと思っています。

中野新編集委員長のもと、新しい体制で「東邦医学会雑誌」「Toho Journal of Medicine」が今後ますます発展することを心から期待しております。会員の皆様、長い間ご協力いただき誠に有難うございました。

東邦医学会雑誌 編集委員長就任のご挨拶

中野 裕康

東邦大学医学部生化学講座生化学分野教授

2020年4月より、伊豫田明先生の後任として東邦医学会雑誌 編集委員長を拝命いたしました医学部生化学講座生化学分野の中野でございます。今年で67巻となる伝統ある東邦医学会雑誌の編集委員長を担当させていただくことは大変光栄であります。前々編集委員長の杉山先生および前編集委員長の伊豫田先生のご尽力により、英文専門誌のToho Journal of Medicineの創刊や、東邦医学会雑誌を年6号から4号とする改革もその後順調に推移しております。英文論文、邦文論文および邦文連載記事については東邦大学学術リポジトリにおいて、誰でもPDFで閲覧できる状況となっており、本学内のみならず学外へ多くのエビデンスを発信できる雑誌となっています。将来的にはPubMed掲載やIFを獲得することが目標ですが、その前に学内で行われた研究を広く社会に発信するためには、Toho Journal of Medicineに投稿したプレプリントをBioRxivなどのプレプリントサーバーに同時に投稿するという方法もある考えております。またToho Journal of Medicineをより良くするために、まず査読者の裾野を広げ、教授だけでなく准教授や講師も含めて査読者を選定できるようなシステムが昨年度構築されました。このシステムを学位論文にも将来的には適応して、掲載される学位論文の質をより高いものにして行きたいと考えております。このような改革は編集委員の人たちと緊密な連携をとりつつ行っていきたいと考えております。

さらにToho Journal of Medicineの雑誌の性格上、臨床研究に関する論文が多いことから、今回の任期交代で臨床

系の先生方に編集委員として多く参画していただきました。編集委員として新たに、(五十音順)基礎系から内藤篤彦先生(生理学講座細胞生理学分野)、臨床系から、高橋寛先生(整形外科学講座[大森])、南木敏宏先生(内科学講座膠原病学分野[大森])、盛田俊介先生(臨床検査医学講座[大森])にご就任いただきました。基礎系から赤羽悟美先生(生理学講座統合生理学分野)、近藤元就先生(免疫学講座)、佐藤二美先生(解剖学講座生体構造学分野)、臨床系から池田隆徳先生(内科学講座循環器内科学分野[大森])、片桐由起子先生(産科婦人科学講座[大森])、弘世貴久先生(内科学講座糖尿病・代謝・内分泌学分野[大森])、水野雅文先生(精神神経医学講座[大森])、和田弘太先生(耳鼻咽喉科学講座[大森])には昨期に引き続きお願いし、前編集委員長の伊豫田明先生(呼吸器外科学講座[大森])と津熊久幸先生(医学情報学)には編集顧問として大所高所からご意見を頂きたいと思っております。また前期で退任された石井良和先生(微生物・感染症学講座)、三上哲夫先生(病理学講座)、島田英昭先生(外科学講座一般・消化器外科学分野[大森])、編集顧問の杉山篤先生(前々編集委員長、薬理学講座)の皆様には大変お世話になりました。編集委員の先生方にはご多忙の中、多大なご苦勞をおかけすることになると思いますが、ご協力の程よろしく願いいたします。4月より新しい体制となりますが、多くの方に支えて頂きながら、この3年間を乗り切れるよう努力したいと思っております。会員の皆様、ご協力の程、よろしく願いいたします。